



本庁舎の整備について

市民委員会から報告書が提出されました

◆本庁舎の課題

市役所本庁舎については、耐震診断を行ったところ、耐震強度が災害対策活動の拠点に必要な数値の3分の1以下と低く、利用者の安全が守れない状態であることが判明しました。さらに、設備が老朽化している、事務量の増加などで庁舎が狭くなっている、既存の施設を利用するため庁舎が分散しているなど、利便性の問題を抱えています。

このため、市民による日光市本庁舎整備検討市民委員会(以下、市民委員会)において、本庁舎整備の検討が行われ、2月に「日光市本庁舎整備に関する報告書」が提出されました。

◆市民委員会の概要と活動

市民委員会は、自治会代表や各種団体推薦の17名と、公募3名、総合アドバイザー1名(宇都宮大学教授)の計21名で組織されました。そして平成24年度には、会議7回と視察1回、アンケート調査が行われ、本庁舎整備に係る4つの基本的事項である「本庁舎整備の位置・手法・規模・時期」と、本庁舎に求める機能について検討されました。

◆本庁舎整備に関する報告書

市民委員会による検討の結果、次のとおり報告されました。



◆4つの基本的事項

- 位置：現本庁舎敷地
- 手法：新築
- 規模：必要性を十分に精査した面積とする。なお、必要面積や、庁舎を集約するか既存庁舎を活用するかについては、市民の利便性や市の組織、経済性を考慮した上で、今後さらに検討すること。
- 時期：利用者や職員の安全を確保するため、早期に整備することが望ましい。また、有利な財源である合併特例債が活用できる期限内に合わせた整備が必要である。

◆新庁舎への思い

新庁舎に求める機能については、さまざまな意見をできるだけ多く取り入れてもらいたいとの考えから、「新庁舎への10の思い」としてまとめられました。

- ①市民が利用しやすい庁舎(利便性)
- ②安全で安心な庁舎(安全性)
- ③経済性を考えた庁舎(経済性)
- ④環境にやさしい庁舎(環境性)
- ⑤将来のことを考えた庁舎(将来性)
- ⑥日光市にふさわしい庁舎(日光らしさ)
- ⑦市民が快適に憩える庁舎(快適性)
- ⑧職員が働きやすい庁舎(職場環境)
- ⑨人と人のつながりを大切にする庁舎(市民交流)

⑩地域とのつながりを大切にする庁舎(地域連携)
これら10の思いを集約し、最終的に「委員からの新庁舎への思い」が、次のとおり示されました。

「輝き続ける新しい日光市の礎を、昨日を守り伝え、今日にやさしく、明日を創る庁舎」

◆本庁舎整備の今後

長い将来にわたり利用する本庁舎の整備については、今後も利便性や安全性、経済性、将来性などさまざまな角度から検討を行います。そして、効率的に事業を進めるため、市民委員会から提出された報告書を最大限に尊重しながら、本庁舎整備の基本となる計画策定を目指します。その検討に際して、市民委員を公募する予定です。

市は本庁舎の整備について、今後も広報紙をはじめ、さまざまな手段でお知らせしていきます。

くわしくは
管財契約課 庁舎整備準備室
☎(21)5132



(財)自治総合センターでは、コミュニティの健全な発展や、自治宝くじの普及広報を目的として、宝くじの売上金の一部を活用したコミュニティ助成事業を行っています。市はこの助成を受けて、自治会などで使用できる備品や資機材を整備していますが、今回は、平成24年度の整備状況をお知らせします。

くわしくは
地域振興課
市民協働推進係
☎(21)5147

コミュニティ助成事業の

実績をお知らせします

▶自治会用備品を整備

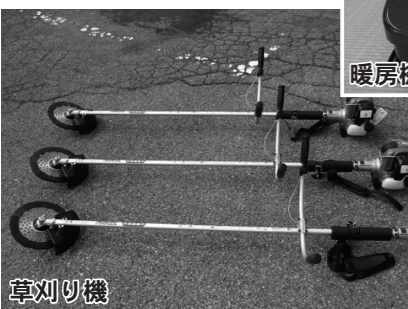
栗山地区17の自治会が使用できるように、ガス瞬間給湯器や暖房機、草刈り機、スポーツ用具などの備品を整備しました。



ガス瞬間給湯器・電気ポット



暖房機



草刈り機



スポーツ用具

▶防災資機材を整備

杉の沢自主防災会、星が丘自主防災会、東町自主防災会、大谷向町自主防災会、左下部自主防災会、七里自主防災会、吉沢自主防災会、大沢町第1自主防災会、大沢町第2自主防災会、沢又自主防災会



サイレン付きメガホン



ラジオ付きライト



ワンタッチテント

にラジオ付きライトやサイレン付きメガホン、パイプテント、救急箱などの防災資機材を整備しました。皆さんで大切に使用し、地域の防災力を高めましょう。